



2014年12月19日

株式会社 リクルート マーケティング パートナース

カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2014-2015 に輝いたのは『マツダ CX-5』

中古車情報誌『カーセンサー』は独自の膨大なビッグデータから
今年、ユーザーが最も注目した車種を発表

参考資料

- CX-5が注目された理由を分析
- カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー
2014-2015 部門別ランキング

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにいる、出会い。」を届けることを目指していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】

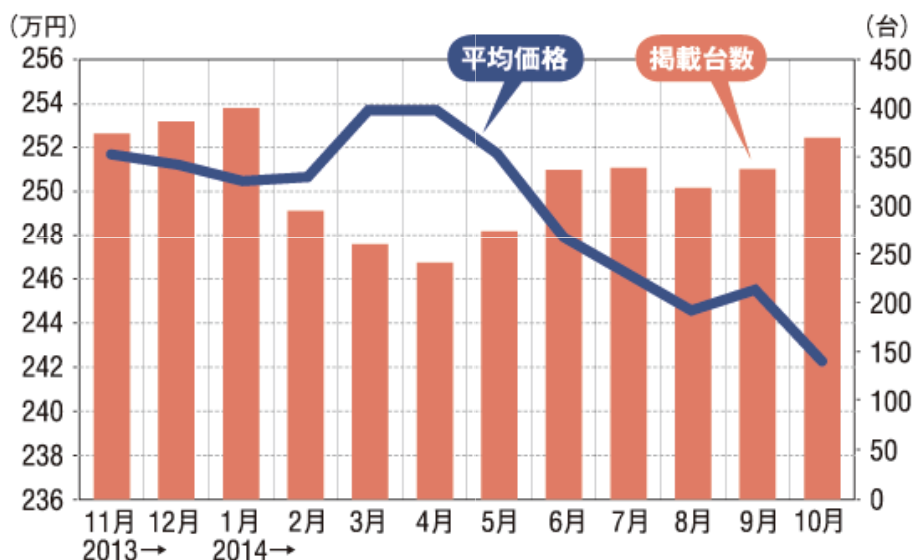
https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

■CX-5が注目された理由を分析

☆問い合わせを伸ばす追い風となったディーゼル熱

下グラフは、過去1年間のカーセンサーnetに掲載されたCX-5の月間の掲載台数と平均価格を示したものです。掲載台数は250～400台／月の水準で推移しました。一般的に、掲載台数と問い合わせ件数は正比例の関係にあり、250～400台／月程度では大量の問い合わせ件数は期待できません。しかし、2014年はCX-5に追い風が吹きました。ディーゼル車の走行性能に対する高い評価と、前半期のガソリン価格高騰による軽油の割安感。つまり、CX-5が注目された理由は、ディーゼル車への期待が中古車市場にも反映された結果だと考えられます。下半期に入り中古車平均価格が下がっていますが、これはガソリン車の割合が増えてきたことが原因。ディーゼル車への追い風は、まだ止む気配がありません。

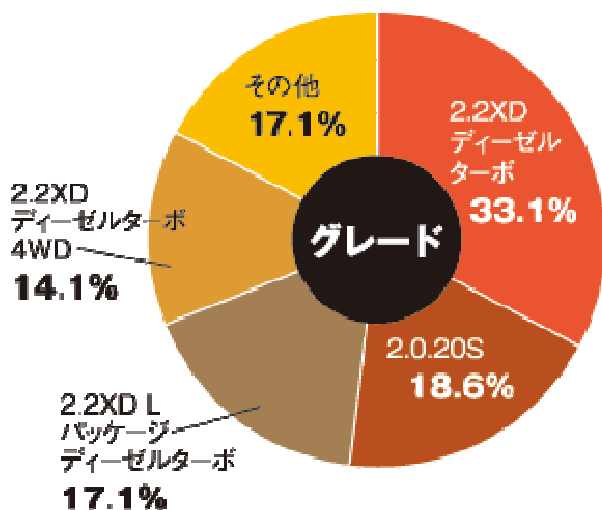
● CX-5の中古車掲載台数と平均価格の推移



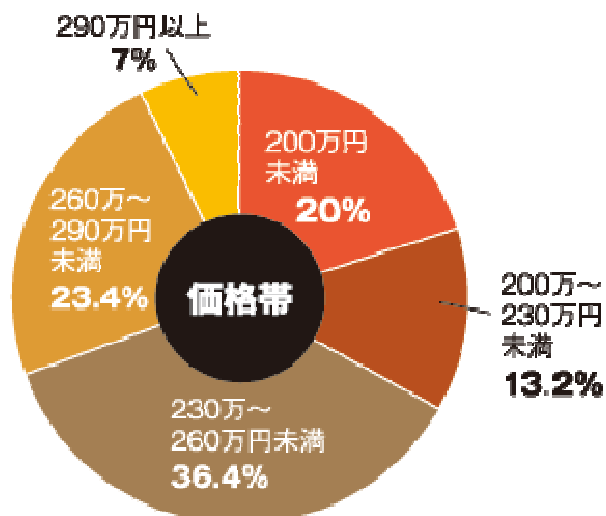
☆7割超を占めたディーゼル車への問い合わせ

ディーゼル車への関心の高さがCX-5人気の追い風であることは、グレード別の問い合わせ割合を示した左下の円グラフにも表れています。最も割合の高かった2.2Lディーゼルターボ搭載の2.2XD（2WD）は、グレード単体で問い合わせ全体の約33%を占めています。2番目は18.6%で2LガソリンのS（2WD）、さらに2.2XD Lパッケージ、2.2XDの4WDと続きます。その他に含まれるものも入れると、3種類あるエンジン別でも2.2Lディーゼルターボが75%を占め他を圧倒しています。一方、価格帯別の問い合わせの割合（円グラフ右下）では、230万～260万円が約36%で最多。これに260万～290万円が23.4%で続いています。決して安くはない価格ながら多くの問い合わせを生んだことから、ディーゼル熱の高さがうかがえます。

●人気のグレード



●人気の価格帯



■カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2014-2015 部門別ランキング

☆輸入車のTOP10

1位	アルファ ロメオ アルファ147 (初代)	6位	ブジョー 307SW (初代)
2位	BMW 3シリーズ (2代目)	7位	BMW 3シリーズツーリング (2代目)
3位	BMW 3シリーズツーリング (初代)	8位	BMW Z4 (初代)
4位	ミニ ミニ (初代)	9位	アウディ TT (初代)
5位	ポルシェ 911 (3代目)	10位	フォルクスワーゲン ポロ (2代目)

輸入車のランキングを見てみると、1位はアルファ ロメオ アルファ147という、ちょっと意外な結果。これは言い換えれば、147は本当に日本市場で大成功を収めたアルファ ロメオだったことが証明されました。トップ10を見てみると8台がドイツ勢。TOP30ではうち25台と圧倒的な強さを見せています。このランキングをもう少し詳しく紐解いていくと、まず面白いのは、TOP30に入ったモデルに「初代」モデルが多いこと。これは年式的にも「お値打ち感」が強いことと共に、このくらいのモデルから、輸入車の信頼性が格段に向上した時代であり、手頃な価格で安心の輸入車を、というある意味賢いユーザーが、これらのクルマのポイント数をあげたのではないかと思います。

☆地域別のBEST3

●北海道

- 1位 スバル レガシィB4 (初代)
- 2位 トヨタ エスティマハイブリッド (現行型)
- 3位 スバル レガシィB4 (2代目)

ランキングの過半数を4WDが占める

トップ10のうち8台が4WD。全国で5位だったレガシィツーリングワゴン (3代目) は北海道では8位でした。また全地域で唯一、トヨタ ランドクルーザー80(初代)が5位に位置しています。ヘヴィデューティなクルマが上位に食い込むことから、積雪の多い地域のユーザーがいかに悪路での走破性を重視しているかを改めて知る結果となりました。

●東北

- 1位 トヨタ エスティマハイブリッド (現行型)
- 2位 スバル レガシィツーリングワゴン (4代目)
- 3位 マツダ CX-5 (現行型)

スバル車への関心度は日本一！

2位のレガシィツーリングワゴン (4代目) 以外にも10位以内に6モデルもスバル車がランクイン。山道が多いこと、北海道同様に積雪が多いことが、4輪駆動に定評のあるスバルに関心を寄せている原因だと考えられます。1位のエスティマハイブリッド (現行型) のほかに5位にホンダ オデッセイ (2代目) が入るなどミニバンも健闘しています。

●北陸・甲信越

- 1位 スバル レガシィツーリングワゴン (4代目)
- 2位 マツダ CX-5 (現行型)
- 3位 スズキ ジムニー (初代)

4WDとコンパクトカーに高い関心

積雪エリアでも北海道・東北とは異なる傾向。5位以降はホンダ フィット (初代)、スズキ ハスラー (現行型)、日産 リーフ (現行型) の順に軽自動車やコンパクトカーが並びます。富山県や山梨県など1人あたりの自家用車保有率が高い県 (一般社団法人自動車検査登録情報協会調べ) が属するため、2台目としてこれらが選ばれていると考えられます。

●北関東

- 1位 日産 リーフ (現行型)
- 2位 ホンダ フィット (初代)
- 3位 マツダ CX-5 (現行型)

環境志向とスポーツ志向が混在

一見、環境性能の高いクルマに関心が集まっているように見える北関東エリア。しかし7位から9位にかけてマツダ RX-8 (初代)、ホンダ CR-Z (初代)、日産 スカイラインGT-R (初代) などスポーツカーが顔を見せています。栃木県や群馬県にあるワインディングの多い、走りを楽しめるスポットがあることが、この理由として一つ挙げられるでしょう。

●関東

- 1位 BMW 3 シリーズ (2代目)
- 2位 ミニ ミニ (初代)
- 3位 マツダRX-8 (現行型)

全国で唯一！輸入車が1位を獲得

全国9位だった3シリーズ(2代目)が関東地域では1位に。全国4位だったミニ (初代) も2位と順位を上げています。関東ユーザーが注目している車種ベスト10のうち、なんと6モデルが輸入車です。クルマが必需品ではなく嗜好品である都市部 (特に東京都内や横浜市内) では比較的価格の高い輸入車に関心が集まると考えられます。

●東海

- 1位 日産 リーフ (現行型)
- 2位 ダイハツ コペン (初代)
- 3位 マツダ CX-5 (現行型)

トップ3は平均価格100万円以上

三重県と岐阜県で首位を獲得したリーフが、東海地域のNo.1。トップ3にランクインしたモデルの年間平均掲載価格を見てみると、すべて100万円以上です。他エリアに比べ、東海地域のユーザーの興味を集める車種の価格帯は若干高めなようです。これはトヨタやスズキがこの地方に本社を構え、自動車産業が盛んということが影響していると考えられます。

●関西

- 1位 マツダ CX-5（現行型）
- 2位 BMW 3 シリーズ（現行型）
- 3位 スズキ ハスラー（現行型）

接戦を制し、CX-5が堂々の1位に

2位と僅差ですが、イヤーカーに輝いたCX-5が関西でも首位を獲得。兵庫県と奈良県で5位以内に入り、ポイントを稼ぎました。また大阪府でメルセデス・ベンツ Sクラス（現行型）、兵庫県でミニ ミニ（初代）が1位になるなど、関東の傾向と合わせてみると、大都市を有する都道府県では輸入車への関心が高いことは間違いなさそうです。

●四国

- 1位 スズキ ジムニー（初代）
- 2位 フォルクスワーゲン ニュービートル（初代）
- 3位 三菱 デリカD:5（2代目）

走破性の高いモデルにポイントが集中

ジムニー（初代）、デリカD:5（現行型）など走破性の高いモデルが注目されている様子。島の中部に各県を分断するように走る四国山地や讃岐山脈がそびえているため、険しい山道を十分に走れる性能が求められているようです。4位には日産 リーフ（現行型）、5位にはマツダ CX-5（現行型）と全国的に注目されているモデルもランクインしています。

●中国

- 1位 日産 リーフ（現行型）
- 2位 マツダRX-8（初代）
- 3位 ホンダ ライフ（2代目）

軽自動車への高い関心度

RX-8（初代）は中国地域で2位。マツダのお膝元である広島県では第1位を獲得しています。一方で軽自動車普及率が全国的にも高い鳥取県や島根県（全軽自協発表）が属する地域のためか、ライフ（2代目）をはじめ、三菱パジェロミニ（初代）、スズキ ワゴンR（2代目）など、トップ10中、4モデルが軽自動車となっています。

●九州・沖縄

- 1位 日産 リーフ（現行型）
- 2位 スズキ ジムニー（初代）
- 3位 マツダ CX-5（現行型）

南方ほど軽自動車が上位を獲得

福岡県ではCX-5（現行型）が1位。ですが鹿児島県と大分県でジムニー（初代）、熊本県と沖縄県でリーフ（現行型）が1位となっています。ワゴンR（2代目）が5位を獲得するなど中国地方同様、トップ10中、4モデルが軽自動車。南方でこの傾向が強いのは積雪のない地域では、軽自動車が移動手段として適しているということでしょう。

■『カーセンサー』編集長 中兼雅之 コメント

カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2014-2015の1位に輝いたのは「マツダCX-5」。ディーゼルエンジンモデルは、そのトルクを生かしたドライバビリティに加えて、ランニングコストを抑えられる点も大きな魅力です。ハイブリッド車の普及が進む傍らで、欧州車と互角に戦えるクリーンディーゼル車を次々と投入するマツダ。CX-5は、この日本市場において新しいディーゼル時代を確立したシンボリックなクルマともいえます。もちろん、高い質感と垢抜けたスタイリングのパッケージングも購入検討者の心を引き付けた要因であるに違いありません。

エリア別で見ると、ランキングの顔ぶれはずいぶん様相が変わります。東北以北の積雪エリアでは、共通してレガシイ人気が根強いという結果が浮き彫りになり、大変興味深いです。雪道レガシイ神話とでも言うべきか、スバルが培ってきた4駆の高い実績がレガシイブランドとなって浸透し、安心感を与えるに至らしめているのかもしれませんが。一方、関東エリアを見てみれば、なんとBMW3シリーズとミニのワンツーフィニッシュ、ベスト10を眺めても、その半数が輸入車で占められており、やはりクルマのニーズというのはその生活圏・生活者の特色を如実に反映しているという点で、改めてその現象の面白さに気付かされました。

カーセンサーの膨大なビッグデータから、購入検討者のクルマ選びの実態をつまびらかにしたこの結果は、本当の意味でのクルマの価値を測る指標の一つかもしれません。来年度のカーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤーが、今から楽しみになってきました。



●カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2014-2015を特集した「カーセンサー 2月号」は12月20日より順次発売

300万円以上で注目度の高かった「ハイエンド部門」や生産終了15年以上の「ビンテージ部門」といった部門賞の他、カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2014-2015 TOP10を一挙に紹介しています。

誌名：カーセンサー
創刊：1984年10月5日
発行エリア：全国16版
発行サイクル：月刊誌（毎月20日～翌月10日）※版によって異なる
定価：154円～257円（税込）※版によって異なる

▼中古車NO.1が決定！「カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2014-2015」（日刊カーセンサー）
http://www.carsensor.net/contents/editor/_27442.html

▼カーセンサー-net
<http://www.carsensor.net>

▼日刊カーセンサー 旬なカーライフエンタメ情報をお届け！
<http://www.carsensor.net/contents/editor>